

脳における エストロゲンの見えざる作用 —心身の性の不一致とは—

東京大学名誉教授
医療法人社団レニア会アルテミスウイメンズホスピタル理事長
武谷 雄二

はじめに

古典的な医学では性差を扱う学門領域は、内外性器の形態と機能、思春期以降の体型など可視化できる対象に限られていた。しかし最近の知見の集積により、性差は全身の諸臓器に及び、特に脳にも性差があることが次第に明らかとなった¹⁾。具体的には精神活動、心理、行動などは性差を考慮しないと理解し難い現象が多数ある。また前号で紹介したように、不安関連疾患、統合失調症などの臨床像には明らかな性差がある。

性には比較的第三者が明解に区別できる身体の性別(ほぼ戸籍上の性と一致)と、本人でしか知り得ない“心の性別”(脳の性)とがある。われわれは、物心がついた頃から、身体的特徴によりすでに決められている性別を抵抗なく受け入れる者(性同一)と、定められた性別に違和感、不快感などを覚え、その性で生きていくことがつらいと感ずる者(性不同一)がいる。決められた性とは無関係に、どちらの性の方が生きやすいかといったことは理屈抜きの感情や欲求であり、これを心の性/脳の性という。ただし、自身と別の性で生きていきたいという強い願望がある者と、そこまで具体的な意思はないが、少なくとも決められた性で生きていくのはどうもしっくりしないと感ずる

程度の者などさまざまである。

最近、自身の性に関する悩みを公表し、社会の理解を求める風潮が高まっているが、多くの場合、両者の性別の不一致によるものである。本稿では心の性に焦点をあてて、それに関する社会や医学会の見方の変遷、さらに自身の性別に関する悩みを抱えている者の疫学、実態などを解説したい。

セックスとジェンダーとの違い

心の性を論ずるにあたり、ジェンダー(gender)という概念を説明する必要がある。一般にはジェンダーはセックス(sex)と同じような意味で用いられているが、厳密にはセックスは身体的特徴により区別される男女、またはインターセックス(intersex; 身体的特徴が曖昧)などを指す。多くは出生時に迷うことなく決定される。それに対してジェンダーは、性別による社会的役割、規範、立ち居振る舞いの違いがあり、どちらの性に特徴的な生き方をしているかを意味する。セックスとジェンダーは一致する場合もあるが、不一致な場合もある。付言するとセックスは特殊事例を除いては自他ともに一目瞭然であり、古今東西を問わず不変である。一方、ジェンダーの選別はおそら